第二十番　誓願寺の御詠歌（到浄調）

松　濤　　基 作曲

（歌詞は５２ページ）

ポイント注意

- 「ごーくぅー」の「く」は力強く短く止め、「ぅーー」と軽くうける。
- 「ほぉーどと」の「ほ」を押さえて、「ぉー」にアクセント。
- 「つとめて」のリズムを強調します。

第二十番　山城の国 京極　誓願寺

極楽は　はるけきほどと　聞きしかど　つとめて至る　所なりけり
（(伝) 空也上人御作）

誓願寺は西山浄土宗深草派の総本山です。保元元年（1156）法然上人24歳の時、嵯峨の清涼寺での７日間の参籠を終え、南都へ赴かれました。そこで法相宗の蔵俊僧都と法談され、この時53歳の僧都は上人の智恵の深いことに感嘆し、直ちに弟子となる礼をつくされたのです。僧都は誓願寺の第21世でしたが、お念仏に帰依され浄土宗とし、上人を第22世中興開山と仰がれました。このお歌は空也上人（903～972）御作と伝えられています。

大意 私にとって極楽は、十万億土のはるか彼方で、往生できるような修行も善根功徳も積めない、手の届かない存在と教えられていました。しかし、そうではないのです。早く発心し今からお念仏に励みましたならば、阿弥陀さまの本願力で誰でも即座に往生できる所なのです。

（楽譜は５０ページ）